

家庭の防災意識向上を目指した 子どもへの防災教育の実践的研究

キーワード:防災教育、災害、家庭

福知山公立大学地域経営学部地域経営学科

谷口ゼミ ちょこっと防災プロジェクト

吉森萌生 木下大生 田藤愛梨 山崎楓真

目次

1. はじめに
2. 現状
3. 実践研究
4. 結果・考察
5. おわりに
6. 参考文献

1. はじめに

【背景】

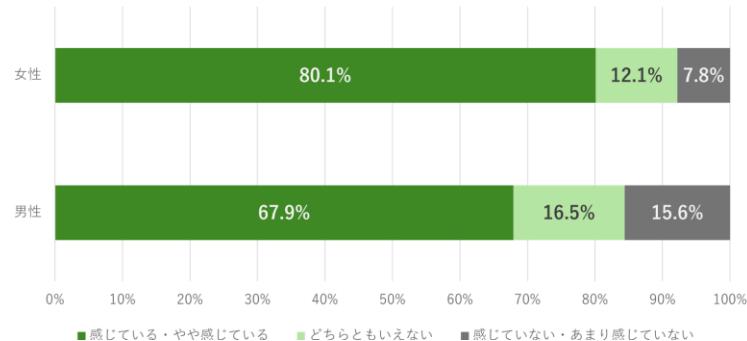
- ・近年の地震多発や、福知山市が水害常襲地域であることから防災の重要性を実感
- ・能登へのボランティアに参加し、事前に備えることの重要性に気づいた
- ・現在、防災教育は主に学校中心であり、家庭・地域での防災教育が不足している
- ・子どもへの防災教育が家庭の防災意識向上の架け橋になるとえた

【目的】

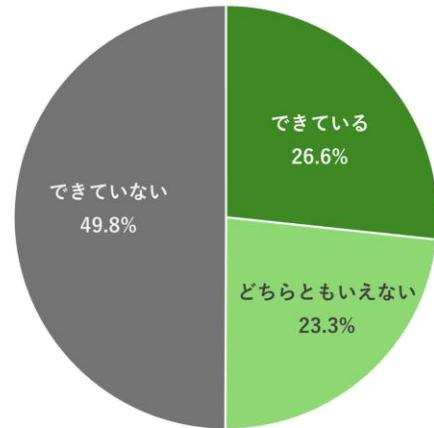
- ・子どもへの防災教育をきっかけに家庭の防災意識を高める

2. 現状①

災害に対して不安を感じている人の割合



在宅時の災害の備えができる家庭の割合



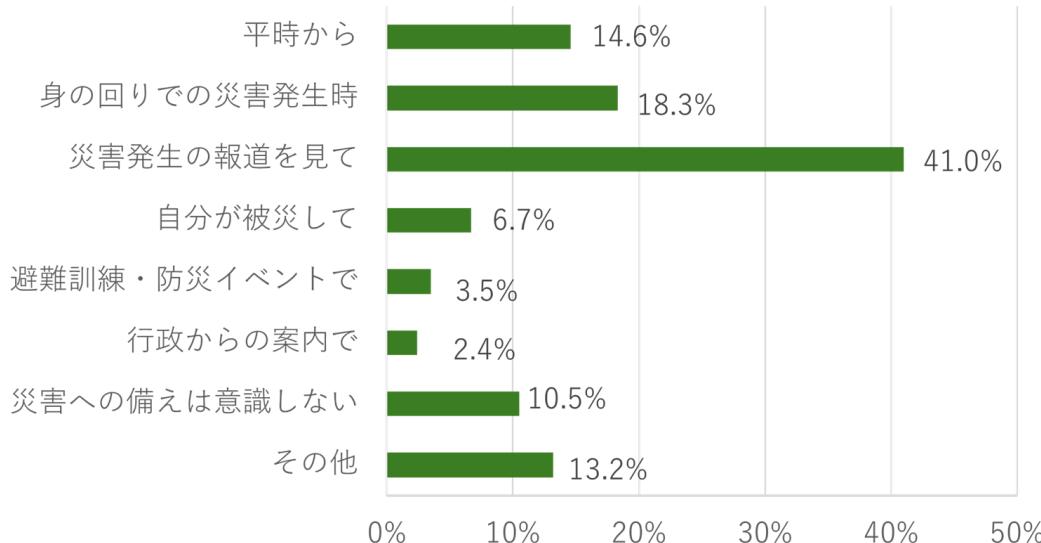
- ・多くの人が災害に不安を感じているものの、実際に災害を意識した防災の取り組みを行っている人が少ない
- ・災害に対する不安が具体的な防災の取り組みに繋がらない

参考:こくみん共済coop(全労災)「防災・災害に関する全国都道府県別意識調査」より筆者作成

2. 現状①

具体的な災害対策に取り組むきっかけがない

在宅時の災害の備えをするタイミング



- ・多くの人は報道を見て備え始め、平時から災害に備える人は少ない
- ・災害を自分事として捉えるきっかけがないと行動に結びつかない

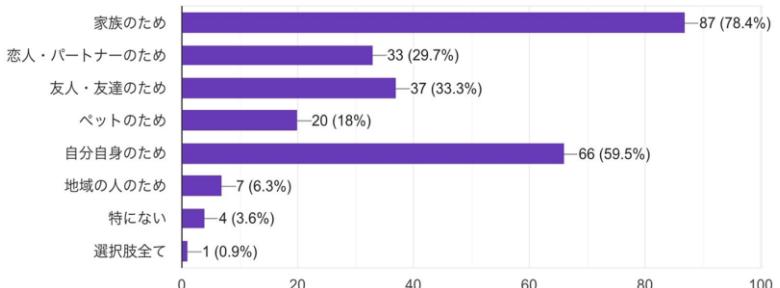
参考:こくみん共済coop(全労災)「防災・災害に関する全国都道府県別意識調査」より筆者作成

2. 現状②

- ▷りとるハピネスでの聞き取り調査からも
- ・災害対策をしなければいけないと思いつつ
- できていないが家族のためなら積極的になれる
- ・子どもの影響力が大きいことが分かった

10. あなたは誰のためであれば防災対策に取り組もうと思えますか。 (2つまで回答可)

111 件の回答



独自の調査より筆者作成

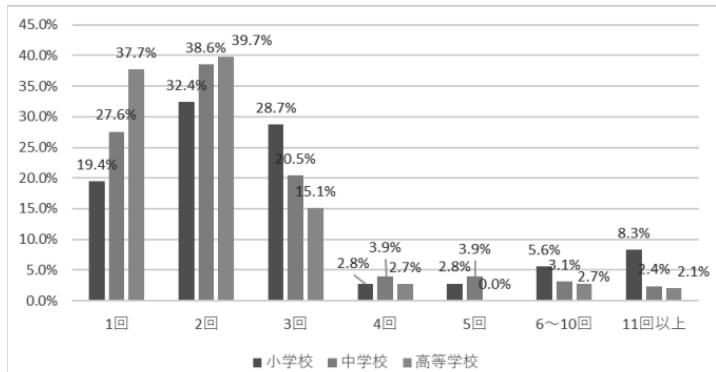
2. 現状②

①「時間」

- 学校では避難訓練や防災教育は実施されている(文部科学省,2019)が年数回・短時間のみ

→深い学び・考える時間が確保されず、
防災教育が形だけになってしまっている

▽防災教育の年間実施回数



集田真裕ら「わが国の学校における防災教育の現状と課題—全国規模アンケート調査の結果をもとに—」より引用

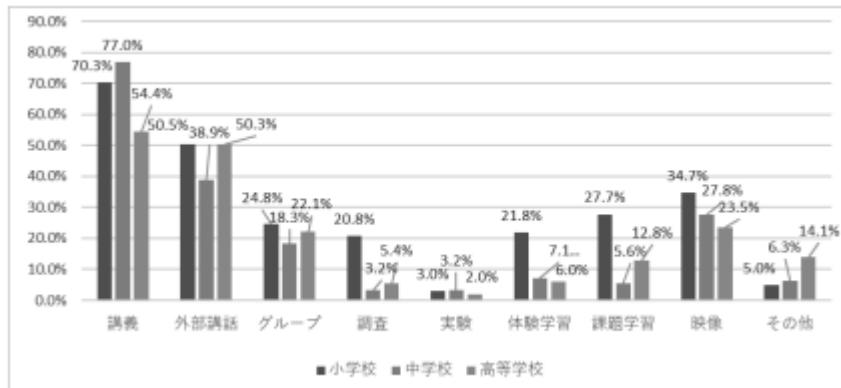
2. 現状②

②「学び方」

- 内容が講義型・避難訓練型に偏り、子どもが受け身で参加
- 子供主体のアクティブラーニング型はあまり使われていない

→防災を「自分ごと」として想像できず、
主体性が生まれない

▽防災教育の方法



柴田真裕ら「わが国の学校における防災教育の現状と課題－全国規模アンケート調査の結果をもとに－」より引用

2. 現状③

福知山市が行っている防災講座

子育て支援拠点りとるハピネス

- 0～2歳児の子どもがいる保護者向け
- 持ち出し品や備蓄品の説明
- 防災紙芝居の読み聞かせ
- 親子で新聞紙で遊ぶ



2. 現状③

福知山市が行っている防災講座

惇明わんぱく村チャレンジ教室 防災教室

- ハザードマップや警戒レベルについて
- 防災紙芝居の読み聞かせ
- 非常用備蓄品についての説明
- ダンボールベットの組み立て体験
- 避難場所で使用するテントを体験



3. 実践研究①

〈調査・見学〉

▷聞き取り調査

・株式会社カスタネット:社長 植木力 様

・一般社団法人京都ソーシャルビジネス・ネットワーク

:代表理事 小山幸司郎 様

・福知山市 健康福祉部 地域包括ケア推進課

災害時ケアプラン推進係

:高橋和利 様

・福知山市 防災危機管理室

・惇明小学校、大正小学校

▷子育て支援拠点りとるハピネス

:防災講座 見学・聞き取り調査

▷惇明わんぱく村の見学

▷福知山公立大学 学生(74人):防災アンケート調査

▷惇明小学校 小学3,4年生:防災アンケート調査中

3. 実践研究②

〈ワークショップ〉



非常用持ち出し品なあにクイズ

○防災お菓子ポシェット作り①

福知山ワンダーマーケット 2024.10.27

目的: お菓子やクイズで楽しく防災について学ぶ
防災を身边に感じてもらう

- ・親子や友達と協力してクイズに取り組んでいた。
- ・オリジナルのポシェットを作って楽しむ様子が見られた。

3. 実践研究②

〈ワークショップ〉



○新聞紙防災スリッパ作り

福知山ワンダーマーケット 2024.12.22

目的:実際に新聞紙スリッパを履いてビーズの上を歩いてもらうことで、スリッパを備えておくことの大切さを知ってもらう

- ・スリッパの作り方を紙にして持ち帰ってもらうことで、家でも作れるようにした
- ・家族にも作りたいと言ってくれる子どもがいた

3. 実践研究②

〈ワークショップ〉



○防災おかしポシェット作り②

はじめてのPBL(課題解決型学習)

パネルセッション＆ワークショップ 2025.3.8

目的:自分で自分に必要なものを選ぶ主体性を育む
自分以外の意見を聞くことで新しい学びを得る
子供が必要としているものを知る

・凝固剤を実際に使ってみる体験をしてもらった
前回よりも防災要素を増やすためにお菓子ではなく
防災グッズを入れた

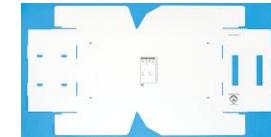
3. 実践研究②

〈ワークショップ〉



○MyきずなぼうさいBOX

惇明地区公民館まつり 2025.10.19



株式会社カスタネットそなえる.comホームページより引用

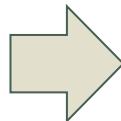
目的: 子どもが防災について自発的に考えるきっかけをつくる
家でも継続的に防災に关心を持つてもらう

- ・子どもたちの絵をきっかけに家族や子ども同士、地域の人との会話が生まれた
- ・家族や友達と話し合いながら防災グッズを選んでいた

4. 結果・考察

〈結果〉

- 防災を身近に感じるきっかけになった
- 実際に体験することで印象に残りやすくなった
- 主体的な学びが促されていた



〈考察〉

- 遊びと学びの時間のバランス
- 単発的な防災教育
→継続的な取組に
- 家庭の防災意識向上にどのように繋がったか把握ができない

5. おわりに

- ▷ 他地域の先行研究を調査
- ▷ 悅明小学校3, 4年生に行っているアンケート結果の集計
防災について聞いてみたいことや思っていることなど



- ▷ 福知山市立丘児童センターでの防災ワークショップ

5. おわりに

- ・具体的な行動を起こすきっかけとして、家族の中での防災に
関わる会話が必要
- ・大切な人を守るための防災だと考えることで、防災を自分事
として捉えられる
- ・これまでのワークショップを通して、実際に家庭でも防災の話
をし、具体的な行動に繋がっているのか調査が必要

6. 参考文献

こくみん共済(全労災)(2024)「防災・災害に関する全国都道府県別意識調査」

<https://www.zenrosai.co/bousai-gensai/survey2024.html> (最終閲覧日:2025年10月20日)

保田真理・齋藤玲・邑本俊亮(2021)「小学生を対象とする防災教育の効果の持続性と家庭への波及:沿岸部と内陸部の比較」『自然災害科学』,第40巻,S08号,p.125-142.

吉永真理(2021)「子ども・若者の参画による防災教育の試み: コミュニティ・エンパワメント意識と自己効力感に着目して」『コミュニティ心理学研究』,第24巻,第2号,p95-113.

柴田真裕、田中綾子、船木伸江、前林清和(2020)「わが国の学校における防災教育の現状と課題ー全国規模アンケート調査の結果をもとにー」, 第1号1巻, pp.19-30.

6. 参考文献

株式会社カスタネットそなえる.comホームページ

<https://nurie-box.com/>(最終閲覧日:2025年11月25日)

文部科学省(2021)『文部科学省における防災教育の現状について』令和3年6月23日.

https://www.mext.go.jp/content/20210623-mxt_kouhou01-000019487_2.pdf(最終閲覧日:2025年11月5日)